自然研がフクロウの食性を調査しているのは、餌となる動物やその生息域を守ることが、フクロウの生息環境を守ることにつながると考えているからです。フクロウの繁殖地と狩場を含めた生息環境を保全することで、地域の自然環境の保全にもなります。

フクロウは暗闇の中で狩りをして、ネズミやモグラなどの小型ほ乳類を中心に、鳥類、両生類、は虫類、昆虫など様々な動物を季節に応じて食べることが知られています。彼らは人間よりずっと感度の良い眼や、音を頼りに、暗闇で獲物を探し出すのです。

自然研はペリット調査で、四日市市西部のフクロウが繁殖期にヒナに与えるエサの内、約60パーセントをモリアオガエルなどのカエルが占めることを明らかにしました。（※表参照）

これまでに、フクロウがカエルをこれほど多く食べていたという詳細な研究報告はありません。この発見は自然研の皆さんの地道な努力の賜物です。

このことから自然研ではモリアオガエルを増やす取り組みも始めました。

▲ペリットから出て来た骨などは、種類ごとに細かく分けます。

▲アンテナでフクロウからの電波を探す部員
※テレメトリ調査
野生動物に発信機を取り付け、アンテナで発信機からの電波を受信し、動物の移動を追跡する調査

| | 目 | 科 | 属 | 和名・学名 | | 個体数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 哺乳類 | トガリネズミ形目（食虫目） | トガリネズミ科 | ジネズミ属 | ニホンジネズミ | *Crocidura dsinezumi* | 4 |
| | | モグラ科 | ヒミズ属 | ヒミズ | *Urotrichus talpoides* | 23 |
| | | | モグラ属 | コウベモグラ | *Mogera cf.wogura* | 1 |
| | ネズミ目 | ネズミ科 | カヤネズミ属 | カヤネズミ | *Micromys minutus* | 2 |
| | | | アカネズミ属 | アカネズミ | *Apodemus speciosus* | 7 |
| | | | | ヒメネズミ | *Apodemus argenteus* | 1 |
| 鳥類 | | | | キジバト大 | | 5 |
| | | | | スズメ大 | | 3 |
| 両生類 | 無尾目 | | | カエル（種不明） | | 71 |
| その他 | | | | ムカデ | | 1 |
| | | | | ※甲虫（カメムシなど） | | 断片 |

▲ペリット調査による四日市市西部に生息するフクロウの繁殖時の食性（2016年）

## 《テレメトリ調査》

今年度からフクロウのヒナたちに発信機を付けて追跡調査を始めました。この調査では場所を変えて、発信機から出る電波を探します。それぞれの電波が来た方向が交差する地点に巣立ちしたフクロウがいます。

初めは周囲に反射してくる電波などと区別がつかず苦労しましたが、経験を積むことでフクロウのいる位置をつかむことができるようになりました。

このような地道な作業の積み重ねやテントに泊まり込んでの観察等で、三重県の北勢地域にすむフクロウの行動や食性などが少しずつわかってきました。

## 教育啓発

▲クイズなどを交えながら、子どもたちにフクロウの話をします。

近年では、フクロウの存在を知る人が少なくなりました。部員たちはフクロウのことを多くの人に知ってもらうために、各地で講演活動を行っています。図鑑や本に書いてあることではなく、自分たちの経験や発見、観察や調査でわかったことを中心に話すので、説得力があります。

特に力を入れているのは、博物館や公民館などでの子ども向けのお話です。部員たちが考えたフクロウに関するクイズやグッズを使って、子どもたちに少しでも興味をもってもらえるように工夫しています。話の後に、「はばたくフクロウ」などの工作を取り入れることもあります。

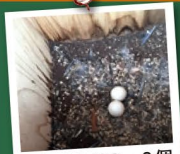
部員たちの話を聞くと子どもたちはフクロウに興味をもち、自分もフクロウを見たいとか、活動に参加したいとか、目を輝かせて言います。

こうして、一人でも多くの人に関心を持ってもらい、フクロウや地域の自然に目を向けてもらうというのが自然研のねらいです。

### 身近な生きもの フクロウ

フクロウは夜行性のため、その姿を見たことのある人は少ないかもしれません。しかし、フクロウは私たちのすぐ近く、例えば集落近くの里山や人里の社寺の森といったところで生活している鳥です。

本来、フクロウは木の洞（うろ）の中でヒナを育てます。フクロウは小鳥よりずっと体が大きいので、木の洞も大きなサイズが必要です。最近は大きな木の洞が少ないので、その代わりとなるフクロウ用の巣箱をかけて、自然研は繁殖を支援しようとしています。



フクロウは2～3個の卵を産みます。

フクロウ成鳥。全長約50cm。繁殖する成鳥は一年中大体同じ場所にいると考えられています。